いびしない愛

竹田モモコ

夕刻。
魚臭く煙臭い、ふし工場（なや）の二階にある事務所。
一年中煙で燻されているので、部屋全体が煤で薄汚れている。
部屋には事務机、休憩できるテーブルと寄せ集めのような椅子、壁にはゴム前掛がいくつか掛かっている。その下にはやゴム長靴やトロ箱などが雑然と置かれてある。
工場はここ半年で受注が激減、静まり返っている。
部屋の中央付近にはパーテーションが置かれてあり、入口からは事務机の様子は見えない。
机の上にはノートパソコンが開かれていて、その上に突っ伏している女がいる。
女の名前は富田喜美子。三年前にこの工場の経営者である父が急逝して後を継いだ富田家の次女。
カチコチと時計の音が事務所に響く。
喜美子が顔をあげる。パソコンの光に照らされた喜美子が喋り出す。

喜美子　今からここに、泥棒が入ります。三、二、一、はい。

喜美子、入口を指す。入口がゆっくりと開き、泥棒（諌山圭吾）が入ってくる。手には草抜き用の器具「ごそっととれ太NEO」を持っている。一応武器のつもりだ。

喜美子　ほら、ばかやろー。センスんない。こげなこんまい工場に今お金があるわけないやん。あとタイミング？
　二ヶ月ぶりに炊きだしたその日に入るタイミング。あーあー、武器のセンスもない。ついでに言うたら、泥棒に入る言う日にこの服はない。つまり総じて生きるセンスがない。まあ、生きるセンスんないけん泥棒らぁやりようがやろうけんだ。……私も人のこと言えんけんだ。

喜美子、あたりの匂いを嗅ぐ。

喜美子　ヨロさん、煮籠入れたね。二ヶ月ぶりや……。今日のメジカは太いけん、一時間半ばぁやろか。……あーあー、動きだいた。

喜美子、机にもどり、パソコンに向かう。
諌山、ゆっくりパーテーションを回り込み、喜美子を見つける。目が合う二人。あまりに驚いてかたまる諌山。

喜美子　初犯？
諌山　……。
喜美子　初犯？
諌山　……。
喜美子　上手？
諌山　……は？
喜美子　刺すが。上手？

喜美子、メガネをとって肩を回す。

喜美子　ちょうどよかった。ちょっと、ここ、刺して。

自分の肩を、ポンポンとする喜美子。

諌山　……はい？
喜美子　多少がいにやったち、かまんけん。
諌山　え。

目をつむって待つ喜美子。

喜美子　……早よ。
諌山　……ごめんなさい。

諌山、なんだかとても恐ろしくなり、慌てて入り口に引き返す。しかし、先ほど入ってきたはずのドアは開かない。

諌山　うわ。

近ずく喜美子。

諌山　うわ。うわうわうわうわうわうわあ……！
喜美子　なんなが。ちょっと刺すだけやいか。さくっとやってや。

狭い事務所を逃げ惑う、諌山。

喜美子　私、それ知っちょうで。立ったまま草引けるやつやろ。こう、掴んで、ぐりっとやったら草がずるっと抜けるやつやろ。やってや。こう、ぐりっと。ずるっと。ああ、このずるっとは、神経的なもんがずるっといく感じやね。エグいね～。エグいが苦手？薄目でこう見るクチ？ほいたら薄目でえいけんやってや。それか、こう、私がこのパーテーションのこっちにおって、あんたんその棒だけだいて、こっちとそっちでこう、ずるっといこうや。
諌山　なんなが、あんた……！
喜美子　それはこっちのセリフやろ。なんながあんた。何しに来たが。その「ごそっととれ太」は飾りなが？
諌山　ごそっととれ太？
喜美子　それの名前。「ごそっととれ太NEO」。それ外にあったやつやろ。

諌山、もう一度ドアをあけようとする。

喜美子　……へいへい。武器くらい持参しょうやぁ。
諌山　なんながあんた、なぁしこ開かんが。怖い！
喜美子　怖いがはこっちよ。
諌山　うそや！絶対おれのほうが怖い！なんながあんた、死ねんかった幽霊なが。
喜美子　え、なにそれ。死ねんかった幽霊って何。
諌山　知らんちや。こんとって……！

諌山、「ごそっととれ太」を放り投げる。事務所に大きな音が響き、場がしずまる。

喜美子　……なんと言うか、責任持とうや。色々。

喜美子、「ごそっととれ太」を拾い上げる。

喜美子　死ねんかった幽霊って、何。
諌山　……勘弁して。マジで。
喜美子　死ねんかった幽霊って何って聞きようが。
諌山　……なんか、だって…死にたがりようやん。
喜美子　死にたがってはない。
諌山　刺せ刺せ言うやいか。
喜美子　うん。刺せとは言うた。えいかんじで。殺せとは言うちょらん。怖いわ。……え、怖。殺すつもりやったが。怖っわー。よかったー。危っぶー。確認って大事やね。何でも伝わっちょうと思うたらいかん。長年連れ添うた夫婦ですら対話を諦めたらじきにすれ違いや言うもんね。ましてや初対面やもん、そら丁寧にいかなぁいかん。私ん悪りかったわ。ごめん。

喜美子と諌山、対峙する間

喜美子　さて。

喜美子、武器を諌山に手渡し、後ろをむく。

喜美子　バッチこい。
諌山　……。
喜美子　殺さん程度に、バッチこい。

諌山、再びドアをガチャガチャやる。

喜美子　あんた、ほんまに何しに来たが。
諌山　別に人をどうこうしょう思うて来たがやない。
喜美子　じゃあ、何でとれ太を持ってきたが。
諌山　え。

喜美子、ごそっととれ太をあごで指し示す。

喜美子　とれ太。
諌山　……それは、なんかあった時のために…
喜美子　人におうた時とか？
諌山　……まあ。
喜美子　じゃあ、今やん。
諌山　いや、使わんにこしたことないろ。空き巣のつもりやったし。
喜美子　空き巣？

うなずく諌山。

諌山　……今は……やりよらん思うたが。
喜美子　今日から再開。久しぶりにまとまった注文入って。生のえいがも入ったし、今晩中に炊いちょこう思うて。冷凍もいっぱいやし。
諌山　知らんやん。もうえいやん。警察電話するなり、人呼ぶなりしてや。
喜美子　え、なんで。捕まりたいが。
諌山　……捕まりたい訳やないけんだ、……この…状況がもう嫌。あんたと二人が嫌。キモい。

喜美子、大きく一歩踏み込んで諌山を脅す。ビビる諌山。笑う喜美子。

喜美子　いかん。私をちょっと刺すまで帰さん。

諌山、もう漏らしそう。その時、突然ドアが空く。ヨロさんが入ってくる。手には包丁。

諌山　あああああああ。

ヨロさん、部屋に入ってくる。せっかく開いたドアが閉まる。

諌山　あああああああああ。

ヨロさん、諌山のことは無視。

ヨロ　釜ぃ入れたで。

喜美子　うん、ありがとう。

ヨロさん、諌山に向き直る。

ヨロ　お客さん。
諌山　……。
ヨロ　お客さん。
喜美子　お客さん。

ヨロさん、ゆっくりと深いおじぎをする。つられて諌山もおじぎ。

ヨロ　ポカリ？
諌山　……。
ヨロ　ポカリ？
諌山　ぽ…か……？
喜美子　ポカリ。

ヨロさん、ゆっくりとドアノブに手をかけ、すばやくドアノブを大きく揺すり、さっとドアを開け、ゆっくり出て行く。それを見ていた諌山。真似をしてみるがドアは開かない。

喜美子　ヨロさん、三十年ここおるがで。あんたんその技できるわけないやん。
諌山　……どうなっちょうが、このドア。
喜美子　まあね。
諌山　まあね？
喜美子　コツんいるがよ。

諌山、再びドアにトライ。

喜美子　無駄無駄。
諌山　なにんお客さんよ……。あんた、なんなが。どうしたいが。
喜美子　やけん言いようやん、ちょっと刺してから帰ってや。
諌山　やけんなんで……。
喜美子　……うーん。理由いる？
諌山　いるろ。普通やないやん。常識的に考えておかしいやん。
喜美子　あんたが常識とか言う？…あ。

喜美子、事務机のところへ諌山を呼びつける。おそるおそる寄って行く諌山。
その時、ドアが開く。慌てて駆け寄る諌山。しかし非情にもヨロさんの手によって扉は閉ざされてしまう。
落胆する諌山。それを見て笑う喜美子。

ヨロ　ポカリ。

諌山、受け取ろうとする。

ヨロ　ああ。

ヨロさん、差し出したポカリを一度ひっこめて首からかけていた薄汚れた手ぬぐいで拭う。口のところを念入りに拭う。

ヨロ　うん。

差し出されたそれを何とも言えない表情で受け取る諌山。

諌山　……ありがとう。
喜美子　ヨロさん、ありがとう。
ヨロ　ずつない。
喜美子　ずつないかよ。ほいた座わっちょきや。どうせ一時間半ばぁやろ。
ヨロ　一時間三十五分。
喜美子　ほうかよ。たいちゃ太いね。

腰をおろすヨロさん。ちびちびと自分のポカリを飲み出す。

ヨロ　あんたもよばれり。

ヨロ、自分のそばにある椅子をぽんぽんと叩く。

諌山　……はあ。

諌山、ヨロさんと横並びになる。机の上に置かれた包丁が気になる。

喜美子　で、何やったっけ。
諌山　え。
喜美子　ああ、刺されたい理由？
諌山　え、いや、ちょっと。

諌山、ヨロさんの存在を気にする。

喜美子　ああ。ヨロさんはおったちおらんだち一緒やけん。
諌山　え。
喜美子　ねー、ヨロさん。
ヨロ・喜美子　ねー。
喜美子　なあしあんたん気ぃつかうが。
諌山　……頭おかしいやろ。

喜美子、パソコンに向かい、何やら作業をしながら喋る。

喜美子　さっき考えよったが。あー、誰ぞそこから突然入ってきてちょっと刺してくれんろうかなーって。ほいたらあんたん入ってきたが。それ持って。すごいことない。刺してもらえる思うやん。ほいたら刺さんゆうやいか。そうはいかんでー。

パソコンを叩く音だけが響く。エンター。

喜美子　……はー。いらんことしぃが……。……今炊きだいたメジカなんぼするか知っちょう？

首を振る諌山。

喜美子　キロで百五十円。やばいでね。もうぜったい刺してもらわないかん。
諌山　……経営が厳しいってこと。
喜美子　当たり前やん。借金はあったち現金はない。残念でした。て言うか、あんた誰。こっちの人やね。
諌山　言うと思う？
喜美子　思わん。まあえいわ。
諌山　……でもまあ、今日からなや再開ながやろ。……これからやに、今ケガしたらばったりやん。

喜美子　うん。ばったりや。
諌山　はあ。
喜美子　ばったりやったねって言われたい。
諌山　はあ。
喜美子　きみちゃんばったりやったね。って言われたい。あ、私、喜美子。
ヨロ　吉田喜八郎。

喜美子、ジェスチャーで「あなたは？」と言う感じをだす。

諌山　……いやいやいやいや。言わんけん。
喜美子　おしいね。
諌山　おしない。…誰にばったりやったね。って言われたいが。
喜美子　みんな。全部。全員。世の中の、社会の、全員。
諌山　……なんで。
喜美子　……なんか、私ばっかりしゃべってあれやね。
諌山　……。

喜美子、そのへんにあったお菓子を食べ出す。

喜美子　ヨロさん、今日ヨロさんだけ。
ヨロ　さかもとてるのぶ。
喜美子　のぶ君くるが。
諌山　え。まだ誰かくるが？
喜美子　……なんというか、ど下手くそやね。
諌山　……。
喜美子　空き巣。
諌山　……。
喜美子　空いちょうか、空いちょらんかすら分からんらぁ。むいちょらんで。
諌山　……俺もそう思う。
喜美子　なぁしやりようが。空き巣。

ヨロさんのほうを気にする諌山。ヨロさんは喜美子に勧められたお菓子を丁寧に食べている。

諌山　……。
喜美子　言うたら開けちゃあけん。
諌山　お金。
喜美子　うそや。お金ん欲しかったら、車出いちょう家狙うたほうが確実やん。
諌山　もうえいやん。何となくよ。
喜美子　何となくなが。何、スポーツ？スポーツ感覚？おしゃれなが。流行っちょうが？空き巣？
諌山　えいやんもう。
喜美子　ほんまのこと言わなぁ開けんで。
諌山　…。
喜美子　簡単やいか。ヨロさん、ヨロさんはなぁし今日納屋きたが。
ヨロ　電話んあって。六時ばから八トン、炊きたいゆうけん。
喜美子　うん。ありがとう。休みやにごめんよ。
ヨロ　うん。ひとっちゃかまん。休みやち、どうつことない。
喜美子　ヨロさん、煮籠入れるが好きやもんね。

ヨロさん、うなずく。

喜美子　ヨロさんは、今日は休みやけんだここにメジカ炊きに来たくれた。はい、あんたは今日はここに何しに

きたが。

ヨロさんの包丁を見る諌山。その視線に気ずいたヨロさん、包丁の上にそっと手をおき、手元に引き寄せる。

諌山　……今日は……このなや、入ってみたかった。
喜美子　……ほう。あ、ヨロさん、明日は昼からでかまんけんね。

うなずくヨロさん

諌山　……空き巣は、なんか癖っていうか。別にお金欲しいがやなくて…。入ってみたんなるが。

うなずくヨロさんと、喜美子。

喜美子　ほうほう。
諌山　……特にこういう、普段人がいっぱいおるとこが、シンとしちょったら、えい。入ってみたんなる。……なんか盗るときもあるけんだ、盗らんことの方が多い。それがメインじゃないっていうか…。より楽しむためのオプションっていうか。思い出っていうか。
喜美子　思い出作りでなんか盗られたらたまらんね。
諌山　やけん、人が困るもんは盗らんで。仕事道具とか、高価なもんとか、ざまにお金とるとかはせん。
喜美子　……ごみとか？
諌山　ごみっていうか……。

さっと事務所内を見渡す諌山。

諌山　ここやったら、ペン、とか。その……軍手とか？記念に。
喜美子　……そのペン持って帰ってどうするが。
諌山　……たまに見て思い出す…とか。

とてもいやぁな顔をする喜美子。

諌山　まあ、そうやろね。
喜美子　……ように分からんけんだ…お金に困った犯行って訳やないがやね。
諌山　うん。お金は大丈夫。
喜美子　へえ。
諌山　ほんまに、純粋に、興味っていうか……。
喜美子　うーん……。建物…フェチ？
諌山　いや。……人がおらんときも、中身ってあるがかなー…って。
喜美子　中身。
諌山　中身。……建物の、中身。
喜美子　うん。ちょっともう無理や。
諌山　待って待って、で、で、確認するだけ。中を。ほんま、それだけ。
喜美子　ほんで「よしよし、中身あるなー」って薄暗い建物の中をろいろいしようが。

諌山、うなずく。

喜美子　きっも。

うなずくヨロさん。

諌山　だってしょうがないやん。「鍵を貸して下さい、そして僕一人にして下さい、中を確認するので」って言うて、知らん人に鍵貸してくれる？

喜美子　絶対いやー！
諫山　やろ？やけん最近は学校とか……休校やったし……。
喜美子　……ここはなんで？いつから目ぇつけちょったが。
諫山　……ここ、営業車でいっつも前通るけん……。前からえいなーって思いよった……。
喜美子　きっも。

うなずくヨロさん。

諫山　あんたに言われたないわ。
喜美子　要するに趣味でこうやって忍び込んで、刺激を楽しんで一人でハアハアしようってこと？変態やね。
諫山　空き巣よりえいやん。
喜美子　空き巣のほうんまだえいわ。
諫山　何でよ、誰っちゃに迷惑かけちょらんやん。
喜美子　空き巣のほうがまだ健全やん。人として。
諫山　なんでよ。もうえいやん、出してや。だいぶこう恥ずかしいとこまで喋ったで、俺。
喜美子　えー。寄らんとって変態。

ヨロさん、包丁を手に取り立ち上がる。構える諫山。

喜美子　あ、ちょとこれ持って。

喜美子、事務机の上にあった置物を諫山に手渡す。

諫山　え。
喜美子　がいに置いたらいかんで。一千万やけん。
諫山　え、え。

ヨロさん、包丁を持って、ゆっくり、さっと出て行く。

諫山　あああああああああ。

諫山、またもチャンスを逃す。笑う喜美子。

喜美子　一千万のわけないやん。
諫山　……どこ行ったが。
喜美子　釜見に行ったがやろ。
諫山　……おれは喋ったで。
喜美子　うん。分かった。変態ゆうがも分かった。

諫山、ため息。

諫山　……出せや。
喜美子　お。
諫山　出せ。約束やぞ。
喜美子　……えいね、その感じで行こう。

喜美子、再びとれ太を諫山に手渡そうとする。

諫山　……なんながあんた。……理由は。なあしわざわざケガして、ばったりやねっていわれたいが。
喜美子　……言うたらやってくれるが。
諫山　……。

とれ太を挟み、黙り込む二人。電話が鳴り、静寂をやぶる。

喜美子　……はい。富田商店です。……しおり？え、あんた今日もんたが。……うん。……うん。え、マジで。え、ちょっと待って。母屋行くけん。……うん。おったや。

受話器を押さえ、諌山をふりかえる喜美子。

喜美子　……来た。理由が来た。

諌山　はあ？

喜美子　ちょっとかわって。

諌山　え。え。いやよ。

喜美子、受話器を無理やりを諌山に手渡す。

喜美子　切ったらいかんで。

諌山　え。え。待ってちょっと。無理無理。……え、もしもし。……もしもし。

喜美子、ペンたてから物差しをとりだし、ドアと壁の隙間にさしこみ、素早くドアノブを引き外にでる。

喜美子　方法はそれぞれ。

喜美子、物差しをもったまま行ってしまった。またもや喜美子の罠にかかってしまった諌山。

諌山　切れちょうし……。

諌山、腹ただしげに受話器を置く。諌山、何か細いものを探そうと事務机の引き出しなどを開ける。やがて、針金のようなものを見つけ、喜美子のようにすきまに突っ込んでノブを引く。開かない。

諌山　あああああああ、もおおおおおおお。

ドアが開く。

諌山　うわあ。

入ってきたのはヨロさんともう一人の従業員、坂元照信。坂元はマスクをしている。

坂元　え。誰。誰？

ヨロ　お客さん。

坂元　お客さん？

諌山、あいまいな表情。手に持った針金が坂元の目にとまる。

坂元　え……？

対峙する間。ドアは開いている。諌山、腹をくくる。

諌山　……ちはー！

坂元　……あ、ちはー。

諌山　あの、エアコン、直しにきました！

諌山、二、三歩下がりながら、ポケットからマスクを取り出しかける。

坂元　あ、はあ。……どうも。……えっと、あー、きみちゃん、あー、福田さん……は？

諌山　福田さんは来客んあって母屋行きました。なや再開するけん、事務所のクーラー直いてや、言われて。ね。今日中に八トン炊くがでね。ね、ヨロさん。

ヨロさん、うなずく。

坂元　あ、知り合いなが。

ヨロさん、うなずく。ヨロさんの反応と、方言に少し警戒をとく坂元。

諌山　あ、僕、ちょっとトイレへ……。

ドアは開いている。諌山、チャンス。

坂元　あ、すんません。あの、今日中にはトン焚くって言うてました？

諌山　あ、うん。言いよったで。ねえ、ヨロさん。

ヨロ　今日は八トン。

坂元　あと三回かあ…。

ヨロ　わしはかまんで。

坂元　明日ん無理なが。そんげぇ人も来んに…。蒸気もかけなぁいかんろ。

諌山、二人が喋ってるうちに出て行こうとする。

坂元　あ、トイレの場所分かります？

諌山、うなずく。

坂元　下まで行かんちも、二階のエレベーターのはたにできたけん。俺も行く。こっち。

坂元、諌山と一緒に出て行く。残されたヨロ　さん、独り言ちる。

ヨロ　かまんがよ、なんじゃち。煮籠釜ぃ入れて、グラグラ炊くがん好きなが。久しぶりやけんにゃあ。今日は生で八トン。まろん太い、えいメジカや。一時間三十五分。あと一時間十分。ぼっちりばぁや。こまいがより、太いがんえいわ。ウルメイワシじゃあ、ササメジカじゃあ炊いたち、そんげえ。

首を振る。

ヨロ　わしは、色々まけてもろうちょう。人よりできんこともようけある。できんこともあるけんだ、できることもある。人んできん思うちょうこともほんまはできるけんだできんふりすることもある。大体はそのほうがじゅんえいけん。

ヨロさん、ドアの方を見る

ヨロ　悪ぃか悪ないかで言うたら、悪ないけん。悪ない人はお客さん。お客さんはポカリ。

ドアが開く。富田家の長女、しおりが入って来る。

しおり　あら、ヨロさん。久しぶりやねー。

ヨロさん、うなずく。

ヨロ　ポカリ？
しおり　ポカリ。

ヨロさん、ポカリを取りに外へ。その間にブラブラと事務所を見て回るしおり。子供の頃から変わってない。何もかもが燻され、魚の匂いが染み付いた事務所。パソコンを立ち上げ、データを見る。しおりの所作のすべてが右手のみで行われている。

しおり　あーあー。

喜美子、入って来る。部屋を横切り、しおりが見ているノートパソコンを閉める。

喜美子　逃げられた……。
しおり　え。
喜美子　……母屋行くって言うたやん。
しおり　えいやん別に。久しぶりになや来てみたんなったが。お母さんおったらできん話もあるし。
喜美子　……何それ。
しおり　……あいかわらずやね。なや。
喜美子　……何が。
しおり　いびしない。
喜美子　……そげな服で来たら匂いつくで。
しおり　別にかまん。
喜美子　どうしたが急に。
しおり　落ち着いたら帰るって言うちょったやん。
喜美子　何あの荷物。
しおり　離婚した。
喜美子　え。……え？
しおり　二回も言わさんとって。
喜美子　離婚？洋一くんと？
しおり　他に誰とするが。
喜美子　……それはまた…何で？

しおり、タバコを取り出し、火をつけようとする。

喜美子　禁煙。

しおり、タバコを置く

しおり　……浮気。
喜美子　え……マジで。

うなずくしおり。タバコに火をつけようとする。

喜美子　禁煙。

しおり、タバコをしまう。

喜美子　え、このご時世にどうやって……ていうか、そんな人に見えんかったに。
しおり　……うん。
喜美子　大丈夫？

しおり　うん。まあ、なんとか。

ヨロさん、ポカリを持って入って来る。ポカリを手渡す。

しおり　ありがと。

しおり、ポカリを一口飲む。

しおり　あー懐かしい。これって、何やったっけ。汗の成分と一緒ながやったっけ？
喜美子　たしか。
しおり　じゃあ、涙の成分とも一緒やろうか。
喜美子　……。
しおり　なんかもう、一生分かってくらい出て？枯れたかも知れんけん、補給しちょかなぁいかん。

明るく笑うしおり。いたたまれない。

喜美子　あれっぱ仲よかったに……。
しおり　うん……。私もそう思いよった。
喜美子　分からんもんやねー。真面目そうな人やったに。
しおり　まあ、私も悪かったかもしれん……。忙しかったし。
喜美子　それは理由にならんろ。
しおり　うーん……今はなんか申し訳ないなって思う。逆に。
喜美子　え。何言いようが。あんたん庇うことないやん。
しおり　……うん。
喜美子　……なんで分かったが？
しおり　え。
喜美子　なんで浮気されちょうって分かったが。
しおり　え。
喜美子　やっぱりケータイ？見てしもうたとか？

間

しおり　あー違う違う違う違う。浮気は私。
喜美子　は。
しおり　え。あ、なんか話ん噛み合わんなー思いよった。浮気したがは私。
喜美子　は。
しおり　まあね。
喜美子　まあね！？……いや、だってさっき、涙ん枯れたとか言いよったやん。
しおり　え、枯れたよー。別れは別れでさみしいもん。情もあるし。
喜美子　いやいやいやいや、ちょっと待って。逆に申し訳ないとか言いよったやん。
しおり　うん。
喜美子　逆やない！まったきに申し訳ない！
しおり　まったき？
喜美子　まったき！まったき！すべて！百パーおまんが悪い！

しおり「私が？」のジェスチャー。
めちゃくちゃうなずく喜美子。
しおり「えー。」のジェスチャー。

喜美子　悪魔か！
しおり　だぁってー、虫みたいなセックスするがやもん。

喜美子　はあ！？
しおり　洋一くん。こう、ぺこぺこぺこぺこーって。
喜美子　あんた、何言いようが。
しおり　いや、耐えれる？この先三十年のぺこぺこ。
喜美子　知らんけんだ。
しおり　知らんこたないろ、今しゃべったがやけん。ちゃんと考えて、想像して。この先三十年のぺこぺこ問題！

坂元と諌山が連れ立って入って来る。喜美子は気づかない。

喜美子　うるさいあんた！虫のセックスらぁ見たことないわ！

全員が固まる。

ヨロ　ぺこぺこぺこぺこー。

間

バタンとドアの閉まる音。

諌山　あああああああ。
ヨロ　ぺこぺこぺこぺこー。

間

坂元　えーと、ちょっとみんな……お茶飲む？
諌山　……いただきます。
坂元　……大丈夫？
諌山　……はい。ちょっと……ドアが閉まったことに……驚いて……。
坂元　……あ、へー。

坂元、ウォータークーラーからお茶をつぎながら

坂元　しおちゃん。もんた？
しおり　もんたー。
坂元　え、何、離婚したー？
しおり　したー。
坂元　え、マジで。
しおり　うん。離婚に成功した。
坂元　……おー。
しおり　何で分かったが？すごいねー。
坂元　……いや、まあ、適当に言うてみたがやけんだ……。どうせあれやろ、しおちゃんが我慢できんなったがやろ。
しおり　おお。ビンゴ。
坂元　マジか……。
しおり　どちら様？

しおり、諌山が気になる。

坂元　あー、そう。マツダ電気の。エアコン直しに来たがやと。伊佐野の人ながやと。
しおり　へー。伊佐野のどこらへん。
坂元　保育園あったやいか。今ないけんだ。
しおり　はいはい。

坂元　その横のヤギんおったとこ。
しおり　ヤギんおったとこ！知っちょうー！青い屋根のとこやろ。みんなんヤギに紙やるけん、おばちゃんざまに怒りよったとこやろ。へえー、あっこの息子さんかー。あのヤギどうなったが？
諌山　……今は、もう……おらんけんだ……。
坂元　ソフト部入っちょったがやと。俺とは時期かぶっちょらんけんだ。まこちらぁの代におったがやと。黄金期やんねー。愛媛遠征行きよったろ。あれで最後やにゃあ。あれから監督ん悪りなってよー。溝口のおんちゃんに変わってよ、ガクッと弱んなった。
諌山　え、監督悪りなったが。
坂元　あ、知らんが。正月にコツンと倒れてよ。
諌山　え、大丈夫やったが。
坂元　うん、まあちょっと痺れん残っちょうみたいなけんだ大丈夫。
諌山　よかった。
坂元　けんだもうノックもよう打たんし、気持ちん切れたと。
諌山　そっかー。

諌山、喜美子の冷ややかな視線に気ずく。

喜美子　……丸裸やん。
諌山　…丸裸ではない……！
坂元　……あー、みきちゃん、……虫の…アレは……まあ、春先のほうが、ように……。
喜美子　その話はもう大丈夫。
坂元　うん。よかった。
喜美子　うん。
ヨロ　ぺこぺこぺこぺこー。
喜美子　ヨロさん、

喜美子、「もう、やめて？」のジェスチャー。

諌山　あ、あの。あの僕、外、外の室外機、見てきます。
坂元　おお。
諌山　ここ、このドア、開けてもらえんろか。
坂元　あ、そっかそっか。ここのドアも直さないかんにゃあ。

坂元、言いながらドアに手をかける

喜美子　待って。

坂元の手が止まる

喜美子　えーと。えー……、一緒に、行きます。
諌山　え。

喜美子、慌てて諌山をたぐりよせ、腕を組む。

喜美子　ご案内します。どうぞ。
諌山　はい？
喜美子　開けて。
坂元　はい？
喜美子　開けて。

坂元、言われるがままにドアを開ける。これもまた坂元独特の開け方。腕を組んで出て行く二人。あっけにと

られ見送る坂元としおり。バタンとドアが閉まる。
しおり　……あれはー。
外から諫山の悲鳴
諫山　あああああああああ。もおおおおおー。
喜美子　待って待って待って待って。
バタバタと音が遠のいてゆく。静まり返る事務所内。
しおり　……あの二人は……デキちょうが？
坂元　え。知らん知らん知らん。ヨロさん、どうなが？あの電気屋知り合いながやろ。
ヨロ　……刺してほしい、言いよった。
坂元　え。
しおり　何それ。
坂元　電気屋が？
ヨロさん、かぶりを振る。
しおり　喜美子が？
ヨロさんうなずく。それぞれ空想の翼を広げる、間。
しおり　……エッロ……！
坂元　いやいやいやいや、違うろ違うろ。
しおり　ここで！？エッロ！ヨロさんおるがやに！？エッロ……！！
ヨロさんうなずく。
坂元　違う違う。いかんいかんいかんいかん。そういうことやないろ。ね、ヨロさん、ね。
ヨロさんうなずく。
しおり　えー、どういうことー。
ヨロ　中身を見たい、言いよった。
坂元　誰が。
ヨロ　でんきや。
再び空想の翼を広げる、間。
しおり　いやあああ、もおおおお。どうしても、どうしても、そっちのほうに……！
坂元　しおちゃん、ストップ、ストップ、ドンストップ。
しおり　どっち？
坂元　ストップ。
坂元、「落ち着いて」のジェスチャー。
坂元　……遊びすぎ。
しおり　うん。ごめん、ごめん。喜美子がそんなわけない。
坂元　……うん。まあ、エアコンの話やろ。

しおり　分かっちょおっちゃ。

それぞれ落ち着く間。しおりは事務机に坂元は椅子に腰掛ける。坂元、マスクを外し、紐をびよんびよん伸ばしている。どうやら耳が痛そうだ。

しおり　ほんまにそうやったら……。
坂元　しおちゃん。
しおり　違う違う、真面目な話。喜美子に彼氏がおったらえいなあって。
坂元　……あー。……まあねえ。
しおり　あの子は結婚とかした方がえいがよ。理由とか、重しがあったほうがえい。
坂元　重し？
しおり　うん。重し。生きる重し。
坂元　……なんかよう分からんけんだ。重しやったら、ここの経営しようだけでもえらい重しながやない。かわいそうに。
しおり　……かわいそうにってのぶ君思う？
坂元　うーん。なんか……なんでやろ。ほんまやね。かわいそうにって思うね。
しおり　でもあの子、自分からここ継ぎたいって言うたがで。
坂元　知っちょう。おばちゃんにも相談されたもん。
しおり　うん。
坂元　うん……。でもなんか、はっきり言うたら……向いてないっていうか……。ごめんやけど。今は特に。いや、一年前はよかったがで、全然。きみちゃんでも。きみちゃんでもって言い方はないか。ごめん。おんちゃんが作ってきた繋がりだけでも充分やっていけよったがよ、ここは。でも……今のこの注文とってきたがも、しおちゃんやろ。二ヶ月近くなやん止まったちなんちゃせんかったもん、きみちゃんは。そのうちこんまいお客さんからポツポツ倒産しだいて、今まで通りじゃいかんかもしれんぜ言うたち、注文入るがただじっぱり待ちよったもん。豊島がつぶれていよいよいかんね言う時に、しおちゃんがネットのあれで……アレしてくれたがやろう。俺にはように分からんけんだ、今までにない販路ながやろ。
しおり　うん。
坂元　俺らぁは品質は全然あれできるけんだ、営業のほうはさっぱりでようにしちゃれんろ。しおちゃんもんてきてほんま良かったちや。
しおり　そうやろうか。
坂元　そうよ。きみちゃんは楽んならぁ。やっと動きだいたけん、ほっとしちょらぁよ。
しおり　うん。

坂元、時計を見る。

坂元　お。煮カス取りに来るいいよったにゃ。ヨロさん、煮カス積まなぁいかんけん、一緒に来て。

坂元、マスクをかけ直す。ヨロさん、うなずいて坂元について行こうとする。

坂元　ヨロさん。

坂元、「マスク」のジェスチャー。ヨロさん、ポケットからくしゃくしゃのマスクを取り出し、かける。そのマスクはとてもとても小さい。

しおり　いってらっしゃーい。

残されたしおり、事務机の回転椅子でくるくる回っている。もう一度パソコンを開いて起動させる。
しばらく画面を睨んでいたが、そのうち天を仰ぐ。大きなため息。

しおり　潰す気かよ……。悪ぃかったとは思うちょう。喜美子は何したち、『しおちゃんの妹』やった。中学校ん時、喜美子と一緒に川で溺れよう子供を助けたがよ。そのあと警察に表彰されて、地方紙に乗ったが。

その時の記事の書き方が、なんていうか……『左手に障がいを持ちながらも溺れている児童を助けた富田しおりさん（右）と妹の喜美子さん（左）。』みたいな書き方で……。そんな感じでまあ、何かにつけて私は、私の左手は、目立つし、そのせいで喜美子はかわいそうな目におうてきた。喜美子の人生に関わらんほうがえいがよ。私は。……ここも、こんなことにならんかったら、ほっちょった。……ほっちょった？ほっちょくべきやった？ほっちょったら潰れるがに……？

息を飲むしおり

しおり　ほんまに、潰したいがやろうか……。

その時、ドアが開く。諌山とからまったままの喜美子が入って来る。諌山を中に放り込んで、バタンとドアを閉める喜美子。二人とも息が上がっている。諌山はえずいている。

諌山　……おえっ。
しおり　え……大丈夫？ポカリ、ポカリ飲む？
諌山　いや、もう……。あの、タポタポなんで。
しおり　え？
諌山　タポタポ……おえっ。
しおり　ああ。

二人の息遣いだけが事務所に響く。

しおり　えーっと、ちょっと、喜美子と話したいことあるがやけんだ……。エアコンの修理は終わったがやろうか。
諌山/喜美子　終わりました。/終わっちょらん。
しおり　え。
諌山/喜美子　終わりました。/終わっちょらん。
しおり　え。どっち。
喜美子　終わっちょらんちや。まだまだこれからや。
諌山　終わりました。もう勘弁してください。
しおり　プロが終わった言うがやけん、終わったがやろう。何がまだまだこれからなが。
喜美子　まだなんちゃしてもろうてない！
諌山　お姉さん、お姉さん、終わりました！試してみて下さい！エアコン！

しおり、リモコンを操作してみる。スイッチオン。

諌山　……来い！

息を飲む二人。鈍い音をたてて、エアコンが動き出す。

諌山　……っしゃ。
喜美子　もおおおー。
諌山　てことで帰ります。
喜美子　いかんちや。
諌山　お姉さん、ここ開けて下さい。

喜美子、ドアの前に立ちはだかる。

喜美子　バラすで。
諌山　バラすで。

喜美子、言葉に詰まる。
諫山　……多分、あんたはバラされたくないがやろう。刺された…
喜美子　あああああ。

諫山の口を塞ごうとする喜美子

しおり　喜美子、いい加減にして。あんたと話がしたいけん、今日はもう電気屋さんには帰ってもろうて。
喜美子　……。
しおり　あんたの大事な人ながは分かったけん、また今度ゆっくり紹介してや。ね。
喜美子　は。
しおり　彼氏ながやろう？
喜美子　違う。
しおり　え。違うが。
喜美子　あっ！……そう！
しおり　え。どっち。
喜美子　彼氏です。
諫山　ちょっと。
喜美子　彼氏で、電気屋さんです。
しおり　あ、そう。どうも。

諫山、とまどいながらも微妙な会釈。

しおり　あー、妹が、お世話になってます。えっとー、ちょっと喜美子に話んあるけん、今日のところは……。
諫山　あ、はい。
喜美子　ちょっと待って。大事な話やったらこの人も一緒に。
しおり　なんで。
喜美子　……大事な人……やけん……？
しおり　え。もうそんな局面まできちょうが？跡取り？
諫山　跡取り？いやいやいや、違います違います。
しおり　……喜美子、ちょっと、今日は…
諫山　ですよね。失礼します。お姉さんドアを。
喜美子　えいちや。話すこととかないけん。おって。
しおり　いや、話すことしかないやん。あんた、ここどうするつもりなが。
喜美子　……どうもこうも、こんな時やし、どうしょうもないやん。
諫山　あの、ドア…
しおり　どうしょうもないってなんちゃあ手打たんかったら、ほんまに潰れるで。
喜美子　……そうならんようにがんばるけん。
しおり　経営者の「がんばる」は事実上ノーコメントで。
喜美子　……そんなこと言うたち、売り先が動いちょらんもん。どうせぇ言うが。
しおり　工場の形態変えて、うちでパッケージングできるようにして、オンラインで直売するとか、個人に向けた商品開発するとか。
喜美子　……無理やろ。新しい機械入れるってこと？どこにそんなお金あるが。
しおり　ちょっと規模縮小して、売れるもん売って、足りん分は借りたらえいやん。ちょっとは投資せな。
喜美子　……考えてみる。
しおり　考えんやん、あんた。やけんこげなことになっちょうがやん。
喜美子　……。
しおり　しんどいけんだ、ついていかないかんけん、変化に。世の中変わりようがで。
喜美子　……今はここ守るがに精一杯なが。
しおり　やけん、守るだけじゃいかん言いようが。
喜美子　お姉ちゃん、ありがとう。今度の注文。助かりました。でもこっちはラーメンチェーン店と直接取引と

かしたことないし、あっちはメジカの今の相場も知らんし、だしのブレンドの提案してくれとか範疇外のことまで要求されて、サンプルだせとか訳の分からんこと言われるし、送料持ってっていわれるし、はっきり言うて、なやのこと知らんお客さんすぎてちょっと困る。
しおり　……喜美子、お客さんは敵やないで。パートナーで。
喜美子　パートナー？
しおり　商品を介して、どっちも幸せにならないかんやん。どっちも勉強したらえいやん。
喜美子　……。
しおり　楽しそうやん、喜美子も勉強するチャンスで。初めてのこととか、慣れんことでも、怖がらんと楽しんだほうがえいで。
喜美子　……。
諌山　……正しい。
しおり　おったが！？
諌山　はい。
しおり　言うてや。
諌山　いや、この短時間で忘れられちょうと思わんかったけん。
しおり　ごめん。
諌山　いやあ、ぐいぐい話すなーと思いよった。
しおり　ごめんて。
諌山　お姉さん、正しいですよね。分かる。目んくらむ。
しおり　……は？
諌山　正しい人が近くにおると目んくらむがよ。分かる。
喜美子　……。
諌山　この人、全部手放したいがで。
喜美子　ちょっと……！
諌山　もうえいやん。もうしんどいです。やめます。でえいやん。
喜美子　……。
しおり　……そうなが。
喜美子　そんなことない。勝手なこと言わんとって。
しおり　あんた、ほんまは……ほんまにこのなや潰したいが？

返事に困る喜美子。

諌山　なんか……、なんで。ちょっとごめん。
しおり　あんた関係ない。
諌山　ないけど、ちょっとごめん。えっとー、お姉さんのほうが明らかにやる気あるやん。よう分からんけんだ。
経営はお姉さんに任せて、あー……喜美子さん、はもうやめたらえいやん、単純に。

うつむく喜美子。

しおり　……雑や。
諌山　は。
しおり　雑な彼氏や。出て行って？
諌山　あ、いや、ドアが…
しおり　あああああ、もおおお。

しおり、立ち上がり、諌山をドアまで引きずっていき、喜美子が止める間も無く諌山を外へ放り出す。

喜美子　あ。
しおり　ごめん。ちゃんと聞かして。あんたはどうしたいが。
喜美子　……しおちゃんは……。
しおり　「しおちゃんは」やない、喜美子はどうしたいが。やりたくないことを無理にやらんでもえいがで。

喜美子　……正しい。
しおり　は。
喜美子　太陽みたいな。
しおり　……今そんな話しよらんろう。

喜美子、諫山を追いかけようとドアの方へ向かう。その時ドアが開き諫山をつれた坂元とヨロさんが入って来る。

坂元　いやあ、思い出した。「いさやま」さんやあ。
喜美子　……へ。
坂元　いさやまさん、いさやまさん。ね。ヤギの家は諫山さん。

坂元、諫山を無理やり椅子に座らせる。

喜美子　諫山さん。
諫山　……はは。

坂元、お茶を継ぎながら話す。ヨロさんは座るところを見つけ、真面目に座る。

坂元　いやぁ、諫山さんときみちゃん知り合いやったとはねー。ああ、ヨロさんマスクもうかまんで。外の人に会うときはほら、あれやん。なんか一応、あれやん。ねえねえねえ、ひょっとしてマジで、諫山さんきみちゃんの彼氏なが？
喜美子　諫山さん。
諫山　はい。
喜美子　お姉ちゃんはやる気あるわけやないが。やる気あろうがなかろうがなんでも上手にするが。
諫山　……はい。
坂元　は。
しおり　……何、悪口。
喜美子　分からん。
しおり　分からん？
喜美子　分からん。あと、気ぃついちょった？お姉ちゃん、左手不自由なが。すごない？昔っから姉ちゃんすごいが。進学校いって、大学でなんかボランティアで海外行って、大っきい電機会社入って、マンションこうて、結婚して浮気して、離婚までして帰ってきた！すごない？
諫山　……すごい。
喜美子　パソコン詳しいが。母の日とかなんか行列のできるスイーツとかクール宅急便でくるが。チーズのやつ。冷蔵庫でゆっくり解凍して食べるやつ、半解凍でもジャリっとして美味しいが。すごない？
諫山　すごい。
喜美子　ほんで、お姉ちゃんいっつも楽しそうなが。すごない？
諫山　すごい。
喜美子　モテる！

喜美子、ビシッと姉を指さす。

諫山　すっごい！
しおり　あんた何、
喜美子　多分お姉ちゃんには分からん。
しおり　何が。
喜美子　……ほっとした。世の中全部止まって、このなやも止まって。何もせんでよくて。がんばらんでも存在してえいがってこんなに楽ながやと思うた。でも……姉ちゃんが動かした。このなやを、また。

しおりは妹の言うことがいまいち分からない。ため息が出る。

しおり　……嫌やったが。
喜美子　嫌っていうか……。
しおり　休みたかったが？
喜美子　……。
しおり　……意味んわからん。

間

諌山　あのー
しおり　やけんあんた関係ないろう。
諌山　いや……。おれ、雨の日好きなんですよ。
しおり　は。ちょっと、
ヨロ　僕も好き。
諌山　……うん。なんか、外出んでも「雨やけんしょうがないねー」で済むやん。みんな家おるがやなーって思いながら家おるがって気が楽っていうか。台風ならなお良いっていうか。
しおり　……で。
諌山　で、今って、なんか長い雨みたいやなー。って思うたが。
しおり　……そんな呑気な。
諌山　うん。いや、ピンチながは頭では分かっちょうがやけんだ……なんか……みんなが、家におること想像すると、ワクワクせん？
喜美子　……。
坂元　……不謹慎やない？
諌山　うん。不謹慎や。
坂元　……うん。
諌山　はい。……えーと、どう？
喜美子　……何が。
諌山　近い？

喜美子、肯定でも否定でもない、よく分からない沈黙。

しおり　……無責任すぎる。今あんたんがんばらんで誰んがんばるが。のぶ君とか、ヨロさんとか、パートで来てくれよう人の生活を考えないかん。雇用主やろ。がんばらんでえい理由とかいっこもない。あんたは、頭も体も全部使うて最後までできること全部せないかんが。かわいそうにしょうがないねって言うてもらえる思うたら大間違いや。甘えるな。
喜美子　お姉ちゃんは……。
しおり　何。

喜美子、何か言ってはいけないことを言いそうになる。

しおり　何、何、何、何。何。
喜美子　……。
しおり　……ハードル下がってえいやろう。何やっても五割増しで評価される。
喜美子　そん……。

喜美子、何も言い返せない。俯いてしまう。

坂元　しおちゃん、そげに追い詰めるもんやない。
しおり　……普通のこと言うただけや。
坂元　うん……。まあ、座り。

坂元、しおりに椅子をすすめる。

坂元　お茶は？
しおり　……お茶はえい。
坂元　……うん。……えーと、きみちゃん、しんどいがやったら無理せんと、ここはしおちゃんに任いたら。二人で共同経営やちえいし、うん。せっかくしおちゃんもんて来たがやけん、二人で助け合いながらやったらえいやいか。こんな時やし、ね。俺らは別になやが動きさえしたら、どっちゃでも……。
しおり　のぶ君、待って、いかんが。
坂元　何んいかんが。
しおり　えっと……。
喜美子　『しおちゃんの妹』になるけん。
坂元　は？
喜美子　二人でなんかやったら、喜美子は絶対『しおちゃんの妹』になるが。ね、お姉ちゃん。
しおり　……。
坂元　何言いようが。当たり前やいか。しおちゃんは、きみちゃんの、姉ちゃんながやけん。
喜美子　違うが。そうはならんが。喜美子は、『しおちゃんの妹』にしかならんが。
坂元　えー？何ん違うが。
喜美子　お姉ちゃんもどうせあれやろ、なんか色々手ぇまわして私がしたことにする気やろ。共同経営で名前並べる気ぃないろ。
しおり　……私に手伝われるが嫌ながやったら、ちゃんとしいや。
喜美子　できんが！姉ちゃんみたいに色々上手にできんが。
しおり　喜美子。
喜美子　期待せんとって、ほんまにもう、マジで。お姉ちゃんには信じられんやろうけんだ、普通のことを普通にできん人もおるが。なんと！ここに！
しおり　……話んならん。あんたは私とちごうて五体満足やし、左手も…
喜美子　分かっちょう。知っちょう。それ言うたら私もう、なんっちゃ言えんやん。分かっちょうやん。姉ちゃんずるいわ。私やち好きで……。

喜美子、言葉をのむ。

しおり　……好きで五体満足に生まれてきたわけやない？好きで障がい者の妹やりようわけやない？
喜美子　……意地悪やね。……あんたの妹やと、私はどれっぱがんばらないかんが。

しおり、大きくため息。

しおり　……ごめん。どうしても責めてしまう。分かった。私が手伝うのはいや。なやを自分でたたむのもいや。どうしたらえいが。
喜美子　……分からん。自分でも分からん。やけんさっさと刺されておしまいにしたかったがやに。
しおり　は。

喜美子、諌山に向かって

喜美子　ぐず。
諌山　うわあ。
しおり　刺されたいって、何。何を？
諌山　あー、えっと……
ヨロ　俺んやっちゃあか。
諌山　は。
ヨロ　俺んやっちゃあ。

ヨロさん、かたわらに投げ捨てられてあったごそっととれ太を持ち上げ、喜美子のほうへ構える。

諫山　ちょっと、
坂元　ちょっと待ってヨロさん、どういたが。
ヨロ　俺やったら、誰っちゃ悪ぃない、になる。
諫山　あ……。
坂元　は？
ヨロ　きみちゃん、ワシん刺いちゃあ。上手やけん。

ヨロさん、とれ太をかまえ、真っ直ぐスタスタと喜美子に向かっていく。

しおり　ちょっとヨロさん、何やりようが。何それ。何それ、怖い。

しおり、ぼうぜんとしている喜美子をつれて部屋の中を逃げまどう。

ヨロ　上手にしちゃあけん。
しおり　ちょと待って、怖い怖い怖い。それ何。何するもん？それが何か教えて。
諫山　ごそっととれ太。
しおり　……いや分からん。
諫山　名前。
しおり　名前？それ刺すが？喜美子に？なんで。
ヨロ　きみちゃんが、止まる。
しおり　はい？
ヨロ　止まる。
しおり　うわ、ちょっと、やめて。のぶ君、止めて。
坂元　ヨロさん、ちょっと、危ないけん。諫山さん、諫山さん、その棒抑えて。

諫山はぼんやりとヨロさんを見ている。

諫山　ヨロさんって、ほんまは……。

坂元、ヨロさんを取り押さえようとする。意外にもヨロさんは力強く上手くいかない。降りまわされるとれ太。逃げ回る人々。しおりの悲鳴や坂元の怒号で事務所内は騒然となる。

喜美子　痛っ！

一人逃げ遅れた喜美子の左腕をとれ太がかすめたようだ。喜美子、左腕を抑えたままその場にしゃがみこんでしまう。
ヨロさんがゆっくり喜美子に近ずいて行く。一同息を飲む。

ヨロ　痛い？
喜美子　……痛い。
ヨロ　やめる？

しおりが間に入り、喜美子を抱きしめる。

しおり　やめて！

喜美子の答えを待つヨロ。喜美子はヨロさんから目が離せない。

喜美子　やめる。

ヨロ、とれ太を降ろす。がしゃんという音が事務所内に響く。
溶暗。
しおりは喜美子を起こして事務所を出て行く。ヨロさんも出ていく。
残された諫山と坂元、事務椅子やトロ箱に腰を下ろす。薄暗がりの中、独白とも対話ともつかない話をはじめる。

諫山　いやあ、うっかりした。こんなめんどくさいなややとは。ちょっともう不法侵入も自粛やね。
人生のピークって、小三やと思うがよ。手つなぎ鬼とケイドロと靴飛ばしと、他にも仲間と基地作ったり、その基地取られたり、奪還したり、毎日忙しかった。百円持って駄菓子屋行って、あの頃は「食料」って呼びよった。五時のチャイム鳴るまで遊んで、帰ったら用意されたカレー食いながらテレビ見て、寝る前にビー玉磨いて、知っちょう？ビー玉火であぶって、ソッコー水につけたら中にきれいなヒビ入るが。週刊のまんがも月刊のまんがも楽しみやった。本も好きでずッコケシリーずは読破した。一日が二十四時間じゃ足りんかった。……じんせいって、コレの続きやと思いよった。それが……大人になるにつれ、時間が……間延びして、しゃばしゃばで……、その割に息切れして。分かりにくいルールを沢山守らんといかんし。可燃ゴミ、不燃ゴミ、資源ゴミ、目上は上座。名刺は下から。毎月十日が引き落とし。がんばってがんばって正気を保って生きちょうがやに、誰からも褒めてもらえんし。……ほんまはまだそれに慣れちょらんがやと思う。

諫山、ドアの方を見る。

諫山　喜美子さんの気持ちは分かる気がする。

諫山、しばし喜美子のことを思う間。坂元の方を振るかえる

諫山　ねえ、ほんまはヨロさんって…

諫山、ストップモーション

坂元　お前らは暇すぎる。結婚せえ。誰でもえいけん。子供育てろ。追体験できる。弁当作って、子供学校に送って、働いて、青年団にも入る。ライオンずクラブのソフトのコーチもする。スナックにも付きおうたほうがえいにゃあ。地域と繋がっちょったほうが今みたいに困った時も助け合える。休みの日は車出して、死ぬほど買い出しせないかんけん。車はローン組んで新車ね。ファミリーワゴンね。ローンはできるだけ組め。働く意味になる。嫁はんの親の還暦祝いも考えな。幸せかどうかとかは、どうせ今は分からんけん、考えん。それより、目先のことを考える。明日の弁当のおかずを考える。自分のことばっか考えんな。不健康や。考える時間はたばこ一本分くらいで十分や。そうや、コロッケを一からこさえて食え。……ねえ、エアコン止まってない？

諫山、ストップモーション解除。二人でエアコンを見上げる。

諫山　ああ。

暗転。
数日後、昼間の事務所。喜美子としおりが、（場転前の諫山と坂元とそっくり入れ替わる格好で）エアコンを見上げている。喜美子の左腕には包帯が巻かれている。外から諫山の声。

諫山　いいですよー。

喜美子、エアコンのスイッチを入れる。鈍い音を立てて動き出す。

喜美子・しおり　おお。

諫山が入ってくる。

諫山　いけました？
喜美子　いけた。いけた。いやあ、助かったー。

坂元と包丁を持ったヨロさんが入ってくる。ヨロさんは諫山を見て、ポカリを取りに戻って行った。

坂元　お。直った？
しおり　直ったー。
喜美子　なんぼになるろう？今日請求書もらえる？
諫山　あ、はい。ちょっと待って。

諫山、カバンの中から請求書を取り出す。

坂元　まさかほんまに電気屋やったとはにゃあ。
しおり　うん。空き巣のくせに個人情報ガバガバすぎるやろ。
諫山　もうやめて下さい。マジで。空き巣やないし。不法侵入やし。
坂元　どっちもどえらい犯罪やろ。

喜美子、請求書を見る。

喜美子　え、高い。
しおり　見して。え、高―い。
諫山　いや、結局、室外機全とっかえやったし。
しおり　空き巣のくせに。
諫山　それ今、関係ないやん。不法侵入やし。
坂元　えいやん、おごりで。
諫山　いや、室外機おごりって意味分からんし。
坂元　お前、警察に突き出されんかっただけでも感謝せえよ。
しおり　これでどう？

しおり、電卓を諫山に突きつける。

諫山　いや……バカなが。
しおり　……お前をふしにしてやろうか。
諫山　はい？
しおり　のぶ君、人間もふしにできるー？
坂元　……頭おとして、半分に割って、背骨とって、湯がく。ほんで細かい骨とってから燻す。かびつけする。
かびつけたら、中にある水分全部とんでかちかちになる。こげに。

坂元、かたわらのつんであるカゴの中からふしを一本とりだす。

坂元　人でもできるがやない？
諫山　は。
喜美子　そっか……ふし工場って完全犯罪ができる……。
坂元　ヨロさん、煮籠、もう空くろ。
ヨロ　二時間十分。
諫山　え。

いつのまにか戻って来ていたヨロさん、諫山を上から下までじっくりと眺める。

ヨロ　二時間十分。脂肪ん少なそうやけん、えいがんできる。

ヨロさん、諌山にポカリを差し出す。左手には包丁。

坂元　……おお。
喜美子　最後のポカリ……。
諌山　え。……いやっ……！

諌山、手を引っ込める。
ヨロさんの後ろで電卓をかまえるしおり。

諌山　分かった、分かった、いいです、それで。
しおり　え、まじで。やった。
喜美子　ヨロさん、なしで。
ヨロ　なしで。
喜美子　あ、ポカリはあげて。
ヨロ　あげて。

諌山、恐る恐るヨロさんからポカリを受け取り、帰り支度をする。

諌山　……ほぼおごりやん、室外機……。
坂元　あー、すずいー。
しおり　ヨロさん、煮籠もう空くが。
ヨロ　あくで。
しおり　降りるかぁ。諌山さん、ありがとね。

しおり前掛をつけ、ゴム長靴を履き、降りる準備をする。

諌山　……今回だけですよ。
しおり　分かっちょおっちゃ。もうゆすらんけん。
諌山　ほんまですよ。勘弁してくださいよ。

しおり、ゆっくりと振り向き、変な顔で諌山を見つめる。

諌山　ちょお、もお、マジでー！
しおり　うそうそ、またなんかあったらお願いね。定価で。
諌山　定価で。

しおり、出て行く。しおり特有のドアの開け方で。

坂元　ほいたね。今晩ね。
諌山　いや、あの、
坂元　来いよおまえ、来んかったら家までいくぞ。
諌山　えー。
坂元　ヨロさん、降りるで。

坂元、坂元の開け方で出て行く。ヨロさんついていこうとする。

喜美子　あ、ヨロさん、今日こうてきたやつどう？
ヨロ　鮮度ん強いけん、身割れしそうな。型もこまいけん。
喜美子　一晩置く？
ヨロ　置く。
喜美子　了解。お願いしまーす。

ヨロ、ヨロさんの開け方で出て行く。
喜美子と諌山が取り残され、急に静かになる事務所。
諌山　……腕、大丈夫なが。
喜美子　ああ、これ。実はもう治っちょうが。
喜美子、包帯の上から腕をつかんでみせる。
諌山　え。じゃあなあし……うわ、もしかして中二病的な？封印されし左腕？うわぁー。
喜美子　違わぁ。なんぼ私やちそげなことせんわ。
諌山　え、じゃあ何。
喜美子　いや、傷自体はじきに治ったがよ。二日ばで包帯とってなや来たが。そしたらなんかヨロさんが、「包帯は？包帯は？」ってすっごい聞いてくるが。
諌山　ヨロさんが。
喜美子　ヨロさんが。最初は責任感じて心配してくれようがやなーって思いよったけんだ、どうも違うがよ。
諌山　うん。
喜美子　どうも、包帯をつけちょってほしい。っていうことらしい……。
諌山　え、なんで。
喜美子　分からんけんだ、多分…多分やけど、自分がつけた傷やけん、固執しちょうがやと思う。
諌山　傷に？
喜美子　傷っていうか、そのー、結果に？
諌山　んんー……。分からん。
喜美子　分からんわよ、人の気持ちらぁ。
諌山　え、じゃあ一生包帯つけちょくが？
喜美子　まさか。ヨロさんは自分の中でブーム？みたいなのがあるけん、そのうち違うもんが気になって忘れると思う。
諌山　そっか……。えい雇用主やん。
喜美子　何が？
諌山　従業員のこと、それっぱ分かっちょうが大したもんやん。お姉さんやったらそうはいかんがやない？
喜美子　……やけん、しばらく現場でるって言いよった。
諌山　……結局、二人でやっていくが？
喜美子　え？
諌山　姉妹で共同経営。
喜美子　……んー分からん。
諌山　分からんが？
喜美子　分からん。あの人、やっぱ近くにおったらしんどいし。クラスにおったら絶対ちがうグループやん？
諌山　確かに。
喜美子　でも車買うことにした。
諌山　は。「でも」って何。
喜美子　新車。
諌山　何で。
喜美子　のぶ君が、車でも買えって。
諌山　……ああ。……えー？あの人の言うこと真に受けられんって。俺も言われたもん。「ローン返しよったら人生なんてあっという間」説やろ。
喜美子　うん。でも、好きな車こうて、中に毛布とか、カセットコンロとか、水とか食料で備蓄いっぱいにして、嫌んなったらここからいつでも逃げれるようにするがもえいなーって。
諌山　逃げるが前提なが。
喜美子　逃げるが前提やったら多少がんばれるやん。
諌山　うーん……。
喜美子　あと、誰かさんのおかげで、そんなにやる気がない上にめんどくさい妹やということがお姉ちゃんに

バレれて、ちょっと楽んなった。
諫山　おお……。不健康……。
喜美子　あんたに言われたないわ。
諫山　いや、俺は、やるよ。ソフトボールのコーチ。
喜美子　おお。
諫山　だってあの人家まで来るもん。
喜美子　嫌ぁ。
諫山　嫌やろ。でもまあ、思うたよりは、嫌やない。
喜美子　何それ。
諫山　……さて、いなないかん。これよばれるけん。

ポカリを持ち、立ち上がる諫山。

喜美子　あ、ありがとう。支払いは今度持って行くけん。
諫山　うん。まあ、いつでも。

ドアに向かう諫山

諫山　逃げる時教えてや。どっか行きたいとことかあるが？
喜美子　んー。ネス湖とか？
諫山　ネス湖。

ついに諫山の手によってドアが開く。

諫山　……あっ！開いた！ドア開いた！！
喜美子　おお。よかったね。
諫山　え、え、なんで、もう一回！

諫山、ドアを閉め、再び開けようとする。ドアは開かない。

諫山　あれー。なんで？つかんだと思うたにー。

諫山、何度もドアをがちゃがちゃする。ふと何かに気ずく。

諫山　……ネス湖。

ドアが開く。顔を見合わせる二人。もう一度、ドアを閉める。諫山、無言でドアを開けようとする。

諫山　……ふっ。

しばらく試してみるが開かない。

諫山　……ネス湖。

開く。再び顔を見合わせる二人。

諫山　うそやろー。俺、ネス湖―？

諫山、その場にしゃがみこむ。

喜美子　……まあ、人それぞれやしね。

諫山　なんながこのドア、キモいー。
喜美子　ね、ね、もっかいやって、ネス湖。

喜美子、ドアを閉める。

諫山　……ネス湖。

ドアは、すっと開く。笑い転げる喜美子。

喜美子　……えいやん、これで、自由に、行き来、できるで。

喜美子、諫山の肩をポンポン叩く。

諫山　……いや、もうしばらくせんけん。
喜美子　空き巣？
諫山　不法侵入。
喜美子　どっちもどっちやけん。

その時電話がなる。

喜美子　お。
諫山　あ、じゃあほいたら。
喜美子　うん、ほいたら。
諫山　……ネス湖。

喜美子、笑いをこらえながら電話に出る。

喜美子　はい。富田商店です。

暗転。

了